

専門基礎分野

- 1 人体の構造と機能
- 2 疾病の成り立ちと回復の促進
- 3 社会保障制度と生活

1. 人体の構造と機能

科目名 人体構造 I 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1 年次 前期
 教員名 川井 一廣

授業概要：からだの構造は、機能の複雑さと神秘的側面を持ち、厳格な規則性と調和により維持されている。その身体の構造の基礎知識を理解することは、人間の健康あるいは健康障害から看護を実践するためには不可欠な要素である。また、解剖学的視点から人間を理解することをねらいとする。人体構造 I では身体の構造の基本となる骨格・関節・筋肉と循環について学ぶ。

- 到達目標：1 人体の構造を学ぶための解剖学総論を理解する。
 2 骨と関節について理解する。
 3 筋肉についてわかる。
 4 循環器系を構成する臓器について知り、循環のしくみについて理解する
 5 胎児の循環について知る
 6 内蔵学総論について理解する

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	解剖学総論	講義
2	骨・関節総論	講義
3	骨Ⅱと関節 脊柱・胸郭	講義
4	骨Ⅲと関節 骨盤・上肢	講義
5	骨Ⅳと関節 下肢・頭蓋	講義
6	筋Ⅰ 総論 胸部・腹部	講義
7	筋Ⅱ 上肢・下肢	講義
8	筋Ⅲ 頭 循環器Ⅰ 総論	講義
9	循環器Ⅱ 心臓・肺循環	講義
10	循環器Ⅲ 体循環 動脈系Ⅰ	講義
11	動脈系Ⅱ 静脈系Ⅰ 皮静脈	講義
12	静脈系Ⅱ 硬膜静脈洞・門脈・奇静脈 胎児の血液循環	講義
13	胎児の血液循環 内臓学総論 消化器Ⅰ	講義
14	消化器Ⅱ	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

参考書

科目名 人体構造 II 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1 年次 前期
 教員名 川井 一廣

授業概要：人体構造 I で学んだからだの構造を基にそれ其れの臓器のかたちや大きさ・特徴や働きを知り、人間が生きてゆくためにそれらが機能していることを理解する

- 到達目標：1 消化器系の臓器と働きを知る
 2 呼吸器系の臓器と働きを知る
 3 生殖器系の臓器と働きを知る
 4 脳神経系の臓器と働きを知る
 5 神経伝達にかかわる臓器と働きを知る

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	内蔵 消化器系 胃	講義
2	消化器系 小腸・大腸	講義
3	消化器系 肝臓・膵臓	講義
4	呼吸器系 鼻腔から肺	講義
5	呼吸器系 肺 泌尿器系	講義
6	男性生殖器系・女性生殖器系	講義
7	女性生殖器系 神経系 総論	講義
8	髄膜 脊髄、脊髄神経の基本構成	講義
9	脊髄神経	講義
10	脳 延髄、橋、中脳、小脳	講義
11	脳 間脳、大脳半球	講義
12	脳神経 自律神経	講義
13	自律神経 伝導路	講義
14	感覚器	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

参考書

科目名 人体機能 I 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1 年次 前期
 教員名 久保 房子

授業概要：人間が生きている、生きていく状態とは呼吸し、食物を取り入れ消化・吸収し、内部環境・外部環境の変化に伴う調整を維持しているということを理解する。また外界刺激の受容のしくみと刺激に応じた反応のしくみを理解する筋肉運動のしくみを理解する。

- 到達目標：1 細胞の構造と機能について知る
 2 ホメオスタシスを理解する
 3 体液・血液について知る
 4 生体の防御機構について知る
 5 体温とその調節について知る
 6 呼吸・循環のしくみについて知る
 7 身体の調節機能について知る
 8 筋肉運動のしくみを理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	細胞の構造 ・ A T P の生産 ・ 核酸とタンパク質の合成 細胞の機能 ・ 酵素 ・ 受容体 ・ 輸送体	講義
2	体液とホメオスタシス ・ 血液 ・ 血液の組織 ・ 赤血球 ・ 白血球	講義
3	血液 ・ 血小板 ・ 血漿タンパク質 ・ 血液凝固 ・ 血液型	講義
4	生体の防御機構 ・ 非特異的防御機構 ・ 特異的防御機構（免疫）	講義
5	生体の防御機構 ・ 免疫 生体防御の関連臓器 ・ リンパ節 ・ 胸腺 ・ 脾臓	講義
6	体温とその調節 ・ 調節中枢 ・ 熱生産、放散 筋力の収縮	講義
7	骨格筋収縮の種類と特性 不随意筋の収縮の特徴	講義
8	呼吸器の構造・生理 ①内呼吸、外呼吸 ②呼吸運動 ③呼吸器量	講義
9	呼吸器中枢 肺胞の機能、ガス交換	講義
10	循環器 ・ 体循環、肺循環 ・ 心臓の拍動 ・ 心電図 ・ 不整脈	講義
11	血圧とは 血液の循環 血圧・血液量の調節 神経による心臓や血液の働きの調整	講義
12	内蔵機能の調節 ・ 自律神経による調節 ・ 内分泌系による調節 ・ 内分泌とホルモン	講義
13	内分泌系による調節 ・ 内分泌の伝わり方とホルモンの特徴 ・ 化学構造 ・ 作用機序 ・ 視床下部ホルモン ・ 下垂体ホルモン	講義
14	甲状腺ホルモン 副腎皮質・髄質ホルモン 性腺 上皮小体	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）
 解剖生理をおもしろく学ぶ（サイオ出版）

科目名 人体機能 II 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1 年次 前期
 教員名 久保 房子

授業概要：からだの恒常性を維持してゆくためにはホルモンによる体液を通じた調節と、直接的な反応を引き起こす神経による調節とがあり、その調節機構によって栄養・酸素をとり入れ、代謝し老廃物を排泄するという働きが守られている。各々の働きとそれを担う臓器について学び、人間の生きている状態を理解する。

- 到達目標：1 すい臓の働きとホルモンによる調整を知る。
 2 消化器系の働きと消化と吸収について知る。
 3 腎泌尿器系の働きと体液の調節について知る。
 4 生殖器系の働きとホルモンについて知る。
 5 神経系の機能と脳・脊髄の働きについて知り、神経系の調節機能を知る。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	膵臓 ホルモン分泌の調整 ホルモンによる調節の実際	講義
2	栄養と消化と吸収 口・咽頭・食道の機能 胃における消化	講義
3	小腸における消化 栄養の消化吸収 大腸の機能	講義
4	肝臓の機能	講義
5	膵臓・胆嚢の機能	講義
6	体液の調節と尿の生成 ・尿生成のメカニズム ・クリアランスと糸球体濾過量 ・腎臓から分泌される生理活性部室	講義
7	排尿路 ・尿の貯蔵と排尿 体液の調節 ・水分の出納	講義
8	生殖・発生と老化の仕組み 男性の生殖機能 女性の生殖機能 胎児の循環	講義
9	情報の受容と処理 神経系の機能	講義
10	脊髄と脳 脳幹・間脳の機能 大脳新良質・古良質・基底核の機能	講義
11	脳幹・小脳・間脳・大脳の機能 ・大脳基底核の機能 ・脳脊髄液の機能	講義
12	脊髄神経の機能	講義
13	末梢神経 脳神経 自律神経	講義
14	睡眠 本能行動と情動行動	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)
 解剖生理をおもしろく学ぶ (サイオ出版)

科目名 形態機能学 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1年次 前期
 教員名 久保 房子

授業概要：日々の生活を支えるためのケアをするには、病気の解明を目的とする医学の枠組みから体を理解するだけでは不足である。看護の主眼は、病んだときにも健やかなときにも、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。日常生活を作り上げている、食べること、トイレに行くこと、眠ること等の生活行動はすべてからだの働きのうえに成り立っている。からだがどのようにこれらを成し遂げているかを理解することが、看護学及び看護実践にとって重要と考え科目設定した。

到達目標： 1 生きているとはどういうことか理解する。
 2 日常生活行動のしくみが理解できる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	1 生きているとは 2 恒常性維持のための調節機構	講義
2	3 動くこと	講義
3	4 食べること	講義
4	5 息をすること	講義
5	6 トイレに行くこと	講義
6	7 話す・聞くこと 8 眠ること	講義
7	9 子どもを生むこと	講義
8	まとめ 筆記試験 (50分)	

評価方法 筆記試験 100点

テキスト 看護形態機能学 生活行動からみるからだ (日本看護協会)
 解剖生理をおもしろく学ぶ (サイオ出版)
 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

参考書

科目名 生化学 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1 年次 前期
 教員名 武野 大策

授業概要：生体は細胞より微細な構造から成り立っており、生体分子・元素からできている。

すなわち器官系、臓器、組織をふまえて生体分子・元素へと階層性をもってつくられていることを学ぶ。生命活動を維持・調節する生体の最小単位である細胞の働きを物質の出入り、細胞呼吸、糖、蛋白、脂質代謝、また遺伝について学び、生命科学の基礎を学ぶとともに、生化学は解剖生理学とも融けあい連続しあっていることを理解する。さらに医療や看護が行なう行為はこの生命の仕組みの上に成り立ち、その働きを促進するものであることを理解する。

到達目標：1 栄養と代謝、代謝産物の排泄について理解する。

2 遺伝のしくみについて理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	はじめに ・人体の構造と機能では何をやるか ・人体への階層性 ・細胞とは 第1部 生体を構成する物質 特に生体分子を中心に 1, 糖質：定義・種類・性質(光学異性体 環状構造) 小テスト	講義
2	2, 脂質：定義・種類・性質・役割(細胞膜の構成する性質) リポタンパク型 3, タンパク質：定義・種類・性質・役割(タンパク質のアミノ酸配列と遺伝子の関係) 小テスト	講義
3	4, 核酸：定義・種類・性質・役割(DNA, 遺伝子, ゲノムの違い) 5, 無機質：細胞内外のイオンバランス, 電位と細胞の興奮のメカニズム, 筋収縮, 腎の役割 小テスト	講義
4	*内臓機能の調節 1, 自律神経による調節の概略 2, 内分泌系による調節の概略 6, ホルモン：ホルモンの種類と作用機序, ホルモンの種類, 各論 小テスト	講義
5	前回までのまとめ 第2部 代謝：生体が代謝する理由, 酵素-役割, 機構, 活性化, ミカエリス-メンテン定数 血清の酵素 小テスト	講義
6	ビタミン：水溶性・ビタミン, 脂溶性ビタミンの性質 各論 ビタミンA, B, C, D, K 小テスト	講義
7	1, 代謝：異化と同化 2, 糖質代謝：糖質の消化吸収, 解糖系, ケン酸回路, 電子伝達系, 糖新生 小テスト	講義
8	ペントースリン酸回路 3, 血糖値の調節：血糖値を低下させるメカニズム, 血糖値を上昇させるメカニズム 4, 脂質代謝：小テスト	講義
9	糖質代謝 ・脂質代謝	講義
10	脂質代謝 脂肪の消化、吸収、運搬	講義
11	タンパク質代謝 ・タンパク質の代謝	講義
12	アミノ酸の分解 ・尿素回路	講義
13	・遺伝情報 遺伝子、DNAとは ・核酸の代謝 リボ酸の代謝 ・複製とは 等	講義
14	・転写とは ・翻訳とは ・生合成後の修復 ・DNAの指傷と修復 ・ポルフィリン代謝	講義
15	まとめ 筆記試験(50分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

科目名 栄養学 単位数 1単位 15時間
 科目区分名 人体の構造と機能
 開講期 1年次 後期
 教員名 飯島 武

授業概要：日常生活の中で摂取する飲食物には、どのような栄養素や種類が含まれているのか、またそれら栄養素の体内での役割と代謝について学び、一日に摂取すべき量と、どんな食品をどう調理して、どの程度摂取するのかを知り、健康的な食生活について理解する。学生自身が食物を合理的に取ることによって、みずからの健康を守り、病気を予防するよう努力することが必要であると同時に看護実践の場において、対象の食生活上の問題を解決するための基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標：1 栄養素の種類、意義が理解できる。
 2 ライフサイクルに応じた栄養のあり方が理解できる。
 3 臨床栄養の意義と食事療法が理解できる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	・炭水化物、脂質、タンパク質の構成成分と消化吸収	講義
2	・エネルギー発生	講義
3	・ビタミン、種類、性質、機能について ・ミネラル //	講義
4	・食品のエネルギー : カロリー計算	講義
5	・消化吸収 ・消化酵素 (分解組織の反応)	講義
6	・栄養ケア、マネジメントとは スクリーニング、アセスメント、ケア計画 ・モニタリング、評価 (項目のみ説明)	講義
7	・高齢期における栄養 (栄養ケア、マネジメント) ・臨床栄養 (疾患別食事療法) ・高血圧、動脈硬化、肝疾患、肥満、ネフロゼ症候群	講義
8	まとめ 筆記試験 (50分)	

評価方法 筆記試験 100点

テキスト 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (医学書院)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

2. 疾病の成り立ちと回復の促進

科目名 病態生理学 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 1 年次 後期
 教員名 出雲 俊之

授業概要：健康障害の種類と程度を理解するためには疾患についての知識は不可欠である。

疾病の成り立ちを細胞、組織の変化から学び、また症状・症候の起こる機序について知り、疾患の理解の基本となる知識を得る。

- 到達目標：1 疾病概念について理解できる。
 2 疾病の種類と内容について理解できる。
 3 病理学的変化を理解できる。
 4 代表的な症状・症候の出現する機序を理解する

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	病態生理学とは 体液の異常 血行障害	講義
2	炎症と修復 免疫および免疫疾患	講義
3	感染 変性・壊死・萎縮・老化	講義
4	腫瘍と過形成 先天異常 代謝異常	講義
5	咳嗽・喀痰 呼吸困難	講義
6	胸痛 不整脈 チアノーゼ	講義
7	ショック 腹痛 食欲不振	講義
8	嚥下障害 嘔気嘔吐	講義
9	腹水 黄疸 貧血	講義
10	意識障害 頭痛 痙攣・てんかん	講義
11	運動麻痺 運動失調	講義
12	感覚機能の障害 腰痛	講義
13	発熱 浮腫 脱水	講義
14	睡眠障害 倦怠感	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち 病態生理学 (メディカ出版)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

科目名 病態論 I 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 1 年次 後期
 教員名 後藤 なおみ 櫻井 貴恵

授業概要：呼吸機能障害・循環機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。

- 到達目標：1 呼吸機能障害を起こす、呼吸器疾病の病態生理を理解する。
 2 呼吸器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
 3 循環機能障害を起こす、循環器疾患の病態生理を理解する。
 4 循環器系疾病を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	循環器 ・循環器って・・・何？ ・循環器に関する知識の確認 ・循環器の病気に出てくる症状	講義
2	循環器の検査 ・循環器に必要なフィジカルアセスメントって	講義
3	代表的疾患：虚血性心疾患 ・狭心症と心筋梗塞 その①	講義
4	狭心症と心筋梗塞 その②	講義
5	すべての心疾患の最終病態・・・ 心不全とは	講義
6	年齢に関係ないよ 不整脈の恐怖・・・	講義
7	これも循環器疾患？ AOS、解離性大動脈瘤、先天性疾患、後天性疾患・・・	講義
8	呼吸器 ・呼吸器系の構造と機能 呼吸器の解剖・生理 横隔膜の運動	講義
9	症状とその病態生理 喀痰 血痰 咯血 胸痛 呼吸困難 チアノーゼ ばち指 喘息 発熱	講義
10	検査と治療、処置 ・呼吸器系の主な検査 ・肺機能検査について ・血液ガス分析について（データの読み方） ・動脈血酸素飽和度	講義
11	検査と治療、処置 酸素呼吸 呼吸理学療法 人工呼吸療法 外科的処置	講義
12	感染・炎症的疾患 肺炎、結核、気管支炎、インフルエンザ・サルコイドーシス	講義
13	気道疾患 気管支喘息、気管支拡張症、慢性閉塞性疾患、胸膜、横隔膜疾患、胸膜炎、等 胸部外傷について 肺塞栓について	講義
14	肺腫瘍について 肺ガン、胸腔ドレーンについて、呼吸不全について	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 配点(循環 50 点 呼吸 50 点)

テキスト 成人看護学 [2] 呼吸器 (医学書院)・ 成人看護学 [3] 循環器 (医学書院)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)・ 病態生理学 (メディカ出版)

科目名 病態論 II 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 1 年次 後期
 教員名 藤村 作 森本 昇司 今村 恵一郎

授業概要：機能障害・運動機能障害・内分泌機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。

- 到達目標：1 消化吸収機能障害を起こす、消化器疾病の病態生理を理解する。
 2 消化器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
 3 調節機能障害を起こす、内分泌・代謝疾患の病態生理を理解する。
 4 内分泌・代謝疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
 5 運動機能障害を起こす、骨・関節器疾患の病態生理を理解する。
 6 骨・関節器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	消化器系疾患の特徴 ・ 術前術後管理 ・ 食道がん、アカラジア。逆流性食道炎	講義
2	胃癌 ・ 十二指腸潰瘍	講義
3	大腸癌 ・ 憩室症 ・ 憩室炎 ・ 虫垂炎 ・ 腸閉塞	講義
4	胆石症 ・ 肝炎 ・ 肝硬変 ・ 肝癌	講義
5	膵癌 ・ 膵炎 ・ ドレナージ ・ 症例問題	講義
6	内分泌学 総論	講義
7	内分泌学各論 下垂体ホルモン系	講義
8	内分泌学各論 甲状腺系	講義
9	内分泌学各論 副腎皮質系	講義
10	糖尿病疾患系他 代謝系	講義
11	骨関節筋系疾患の特徴	講義
12	骨折・炎症・腫瘍・ヘルニア・リュウマチの病態生理	講義
13	症状・検査・診断	講義
14	治療方法	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点 配点(消化器 40 点 内分泌 30 点 運動 30 点)

テキスト 成人看護学 [5] 消化器 (医学書院)・成人看護学 [6] 内分泌・代謝 (医学書院)
 成人看護学 [10] 運動器 (医学書院)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)・病態生理学 (メディカ出版)

科目名 病態論 III 単位数 1 単位 30 時間

科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進

開講期 1 年次 後期

教員名 木村 京子 山上 敬司 関根 威

授業概要：生体防御機能障害・感覚認知機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。

- 到達目標：1 生体防御機能障害を起こす、免疫疾患・血液造血器疾患の病態生理を理解する。
2 免疫疾患・血液造血器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
3 感覚・認知機能障害を起こす、脳神経疾患・眼科・耳鼻科・皮膚科疾患の病態生理を理解する。
4 脳神経疾患・眼科・耳鼻科・皮膚科疾患を持つ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	感覚器とは 特殊感覚 体性感覚 眼科疾患 1 眼の機能と仕組み 2 主な症状 3 主な検査と治療 4 主な疾病と治療看護	講義
2	耳鼻咽喉疾患 1 耳鼻の仕組み 2 主な症状 3 主な検査と治療 4 主な疾病と治療看護	講義
3	皮膚科疾患 1 皮膚の仕組み 2 主な症状 3 主な検査と治療 4 主な疾病と治療看護	講義
4	脳神経疾患とは ・概要について ・神経解剖の一部	講義
5	神経解剖学 ・神経機能解剖 ・症状とその病態生理	講義
6	脳神経疾患の症状とその病態生理（意識障害、睡眠障害、等）	講義
7	脳神経疾患 疾病各論	講義
8	脳神経疾患 疾病各論	講義
9	免疫機能障害 1 AIDS・SLE・MRSA・アレルギー等代表的疾患の病態生理と症状	講義
10	2 疾病を診断する主な検査	講義
11	3 主な治療	講義
12	血液造血機能障害 1 鉄欠乏症・溶血性貧血・再生不良性貧血・白血病	講義
13	多発性骨髄腫・悪性リンパ腫・血友病・DIC症候群の病態生理と症状	講義
14	2 疾病を診断する主な検査 3 主な治療	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点 配点（脳神経 40 点 血液・免疫 40 点 感覚器 20 点）

テキスト 成人看護学 [4] 血液・造血器（医学書院）・成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症（医学書院）・成人看護学 [7] 脳・神経（医学書院）・成人看護学 [12] 皮膚
成人看護学 [13] 眼（医学書院）・成人看護学 [14] 耳鼻咽喉（医学書院）

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

科目名 病態論 IV 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 2 年次 前期
 教員名 湯浅 壤治 久保 房子

授業概要：排泄機能障害・生殖器系機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。

- 到達目標：1 排泄機能障害を起こす、腎・泌尿器疾患の病態生理を理解する。
 2 腎・泌尿器疾患をもつ人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
 3 性・生殖機能障害を起こす、女性生殖器疾患・産褥婦の異常の病態生理を理解する。
 4 女性生殖器疾患・産褥婦の異常のある人の身体的アセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	腎・泌尿器の構造と機能	講義
2	症状とその病態生理	講義
3	検査と治療処置	講義
4	腎不全と慢性腎臓病	講義
5	ネフローゼ症候群・糸球体腎炎	講義
6	全身疾患による腎障害	講義
7	尿路の通過障害と機能障害	講義
8	女性生殖器の構造と機能	講義
9	女性生殖器疾患の特徴的な症状と病態生理	講義
10	診察・検査と治療・処置	講義
11	性分化疾患 膣・子宮疾患	講義
12	卵管・卵巣疾患	講義
13	乳房疾患	講義
14	機能的疾患・感染症	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点 配点(腎泌尿器 50 点 生殖・母性異常編 50 点)

テキスト 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 (医学書院)

成人看護学 [9] 女性生殖器 (医学書院)

母性看護学 [2] 母性看護学各論 (医学書院)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)

病態生理学 (メディカ出版)

科目名 病態論 V 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 2 年次 前期
 教員名 高橋 司 竹下和秀 川嶋 寛

授業概要：精神機能障害・小児期の機能障害の概要を知り、それぞれの機能の障害が起こる疾患の病態生理・症状・診断・治療を理解する。またそれらの機能障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。

- 到達目標：1 精神機能障害を起こす、精神科疾患の病態生理を理解する。
 2 精神科疾患をもつ人のアセスメントができる基礎的知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。
 3 小児期によくみられる機能障害について身体的アセスメントができる基礎知識を習得し、検査・治療の方法を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	精神疾患モデル ・精神疾患の分類 ・器質性精神病	講義
2	疾病性精神病 ・認知症病態論 ・てんかん病態論	講義
3	躁うつ病病態論 ・神経症病態論	講義
4	人格障害病態論	講義
5	精神医学症状論	講義
6	神経心理学的症状論	講義
7	精神科治療論（薬物療法、精神療法、行動療法 等）	講義
8	小児疾患総論	講義
9	1 未熟児・消化器疾患・先天性疾患・	講義
10	小児伝染性疾患・ネフローゼ症候群・アレルギー疾患等代表的疾患の病態生理と主な症状	講義
11	2 疾病を診断する主な検査	講義
12	3 主な治療	講義
13	小児外科の主な疾患の診断と治療	講義
14		
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点 配点(精神 50 点 小児 30 点 小児 20 点)

テキスト 精神看護学 [1] 精神看護の基礎 (医学書院)
 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 (医学書院)
 こどもの病気の地図帳 (講談社)

参考書 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 (医学書院)
 病態生理学 (メディカ出版)

科目名 薬理学 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 1 年次 後期
 教員名 笹川 展幸

授業概要：薬と薬物療法の歴史・医薬品の法的規制と、薬物の体内動態や、作用機序を学ぶ。

また各種治療における薬品の作用目的や副作用について学習し、効果判定、副作用の早期発見のための観察、また薬効を効果的に発現するための生活の注意点について理解する。

- 到達目標：1 薬理学の概念と医薬品と法令について理解できる。
 2 薬理学に関する基礎的事項が理解できる。
 3 各種製剤と処方について学ぶ。
 4 各器官、系統別に作用する薬物の作用機序及び副作用について理解できる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	薬理学とは 薬の由来・歴史 (アスピリン、アトロピレ、クラーレ 等) 毒について ・クロードベルナル、パラケルススの紹介	講義
2	濃度の重要性 (濃度反応曲線、 EC_{50} LD_{50} 治療経路) 薬物・毒物の作用点について 細胞の情報伝達機構 (内分泌、シナプス伝導、オートコイド導)	講義
3	受容体の種類 ⇒ agonist と autagoust セカンドメッセンジャー ⇒ 酵素阻害薬 チャネルの構造と機能 ⇒ イオンの不均一な分布 ・ポンプ 取り込み機構	講義
4	薬の使用目的 ・医薬品の法令 ・薬の吸収と分布、代謝、排泄	講義
5	薬の投与経路 血液脳関門 血中の輸送蛋白質 薬物代謝 ・薬物の体内動態	講義
6	薬効に影響を及ぼす因子について 薬の有害作用 副作用 発がん性 催奇形性 等 薬効と生体リズム 時間薬理学	講義
7	化学療法 等 抗生物質 抗がん薬	講義
8	抗炎症薬 ・非ステロイド薬 ・ステロイド薬	講義
9	抗アレルギー薬 ・免疫と薬 痛風治療薬	講義
10	糖尿病治療薬 ・血液と薬 ・気管支喘息治療薬 ・去痰薬	講義
11	自律神経に作用する薬物 ・総論 ・アドレナリン作動等 ・抗アドレナリン作動薬 抗コリン作動薬 コリン作動薬 ・筋弛緩薬 ・筋遮断薬	講義
12	消化器系の疾患とその治療薬 消化性潰瘍 ・嘔吐薬 ・健胃消化薬 ・利胆薬	講義
13	循環器系と治療薬 抗高血圧症 ・狭心症薬 ・抗不整脈薬 ・強心薬 ・利尿薬	講義
14	中枢神経に作用する薬物全般 期末試験対策	講義
15	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)

参考書

科目名 感染と免疫 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 疾病の成り立ちと回復の促進
 開講期 1 年次 前後期
 教員名 森本 昇司

授業概要：病原微生物による感染症について、感染源である微生物の種類や特徴また感染経路を学び、それらの感染を防ぐための方法を学ぶ。また生体の防御のしくみとしての体表面の働きや、免疫機構について知り、医療現場における感染防止対策の根拠を理解する。さらに看護は、日常生活の援助をとおして身体を感染から守ることの必要性を理解する。

- 到達目標： 1 病原微生物（細菌・ウイルス・真菌・原虫）の概要と分類について理解する。
 2 感染と発病について理解する。
 3 免疫学の重要性について理解する。
 4 院内感染対策として消毒・滅菌法について理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	抗体の種類と構造 ・細菌の増殖形態 ・形態観察 ・微生物概要 ・好気性と嫌気性 重症感染症 ・発育条件 ・細菌の特徴	講義
2	2次免疫 ・3次免疫 ・好塩基球と肥満細胞 ・I E G抗体とアレルギー	講義
3	感染の成立と感染経路 ・直接感染 ・感染と消毒 ・ベクターについて	講義
4	細菌の特徴 ・真菌の特徴 ・手指の消毒 ・ウイルスの特徴 ・食中毒（細菌性／ウイルス性）	講義
5	改正感染症新法について ・感染部位毎の特徴 ・予防免疫 ・ワクチンの種類 ・日和見感染 院内感染について	講義
6	微生物学に対するレポート ・健康と疾病に関する概論 ・生物学—生体恒常性維持機構に関して	講義
7	生体防御学 ・常駐細菌叢について ・第1次バリアー（体液、体毛、皮膚）	講義
8	生態防御学 第2次バリアー（免疫担当細胞、リンパ球、顆粒球系）・自然免疫 ・獲得免疫	講義
9	感染防御能 ・MHC class I ・MHC class II ・CD4T 細胞 ・CD8T 細胞 抗原提示機能	講義
10	ヘルプ機能（サイトカイン産生、情報伝達、自己増殖）・細胞障害（キラー）機能 抗体産生誘導 ・免疫記憶	講義
11	スタンダードプリコーション	講義
12	スタンダードプリコーションの実際	講義
13	消毒・滅菌法・無菌操作・手洗い・	講義
14	環境清浄化	講義
15	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学（医学書院）

参考書 授業中に指示

3. 健康支援と社会保障制度

科目名 生命倫理 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 健康支援と社会保障制度
 開講期 3 年次 後期
 教員名 今川 詢子 須田 利佳子

授業概要：生命倫理は医の実践のための倫理規範であり、看護における患者ケアの方法の倫理ではない。看護は倫理学の基礎や原理を現場でどのように応用し実践するか、原理・原則を問い直す必要がある。看護学が倫理学の知識を統合し看護職者としての生命倫理を確立努力が必要である。そこで、生命倫理に関する現在の中心的課題を看護ケアの提供者として学び、生命倫理の成長に清、保健・医療・福祉における道徳的な人材として効果的な実践ができるように学ぶことをねらいとする。

到達目標：1 生命の価値や生きることの意義、質について理解する。
 2 臨床看護場面における倫理について考えることができ、倫理に基づいた実践を行う基礎的考え方を学ぶ

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	生命倫理の基礎となる諸概念	講義
2	生命倫理の4つの基本原則	講義
3	関連する法 ・生命倫理	講義
4	先端医療と倫理	講義
5	生殖技術	講義
6	移植医療 ・遺伝子技術と医療	講義
7	医療の現場における医学研究と倫理 ・今後の医療と生命倫理そして看護	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 資料配布

看護倫理 (医学書院)

看護者の基本的責務 (2018 年版) 定義・概念/基本法/倫理 (日本看護協会)

参考書

科目名 公衆衛生学 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 健康支援と社会保障制度
 開講期 3 年次 後期
 教員名 野本 親男

授業概要：人々の健康を守るためには、生活の場での水・食・有害物質などの環境の安全と健康づくり、疾病予防や疾病の早期発見、早期治療を組織的に行う必要がある。予防医学としての公衆衛生の歴史と現在のありかたについて学び、各発達段階と、生活する場における健康問題について理解する。

到達目標：1 個人及び集団における健康の意義を理解する。
 2 健康の保持増進のための組織的な保健活動について理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	公衆衛生の具体的勉強が大切 各国の公衆衛生発展の経緯の違い	講義
2	PHCの考え方：真の住民主体で作る健康 埼玉県所沢保健所が日本の保健所発祥の地で初代所長は与謝野光氏（鉄幹、晶子の長男） 実地研修が公衆衛生には必要	講義
3	プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの関係と手法 疾病の1次2次3次予防とクラークの5段階 NGO、NPOとGO、ボランティア 健康指標死亡率 受療率 罹患率 プレスロー 地域保健活動	講義
4	コンプライアンス ・ターミナルケア ・ホスピス ・リビングウイル 国際化 ・新型インフル 生命倫理 生殖医療	講義
5	地域格差と健康度 地域保健と保健所、保健センター 母子保健 子育ての課題 虐待 ジェンダー	講義
6	学校保健、結核、いじめ、不登校 成人、老人保健、認知症 ADL 介護保険	講義
7	精神保健 難病 産業保健 感染症（HIV） 危機管理（トリアージ）	講義
8	まとめ 筆記試験（50分）	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生（医学書院）

参考書

科目名 看護をとりまく法律 単位数 1 単位 30 時間
 科目区分名 健康支援と社会保障制度
 開講期 3 年次 後期
 教員名 中村 弘毅

授業概要：法の基本的概念を知り、基本的人権の癱ごとと医療の結びつきを知る。医療・看護が法律の中で規定されている事柄と看護行為を関連させて学ぶ。また、医療事故、医療過誤に実際の事例を通し、臨牀場面の中で看護が直面している法的問題を理解する。

到達目標：1 法の知識と法令について理解する。
 2 法律で規定されている看護婦の業務や責任について理解する。
 3 看護者として知っておきたい関連法規について理解し、必要時ひもとくことができる。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	看護のための法学の目的 ・看護師が直前にする 4 つの責任（刑事・民事・行政・労働の具体的内容）	講義
2	憲法の意義 ・看護記録の重要性 ・裁判員制度と刑事手続	講義
3	復習 ・民事事件の結論について	講義
4	刑事手続の問題点 ・刑事責任（犯罪の成立要件）	講義
5	故意犯と過失犯 ☆看護師の刑事責任 ・契約責任と不法行為責任の意味の違い	講義
6	安楽死と尊厳死（水分と栄養の補給） ・民事責任（過失の具体的内容、因果関係）	講義
7	第 4 章 民事責任 ・損害 ・過失相殺	講義
8	看護師の過失、損害、因果関係という要件 ・看護とインフォームドコンセント	講義
9	患者の同意 ・医療記録の開示根拠	講義
10	秘密主義 ・看護と労働（女性の労働）	講義
11	看護師の位置づけ ・看護師の免許取得条件 ・看護師の名称、業務拡大の改正点 ・行政法上の責任	講義
12	医療の提供 ・提供者の責任 ・提供場所の規制など	講義
13	社会保障、生活保護の切り下げについて ・保健師、助産師、看護師法の改正点のチェック	講義
14	看護と法律のまとめ ・裁判員制度	講義
15	まとめ 筆記試験（50 分）	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障(4)看護をめぐる法と制度（メディカ出版）

参考書

科目名 社会福祉論 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 健康支援と社会保障制度
 開講期 3 年次 後期
 教員名 杉山 明伸

授業概要：社会福祉の発展の歴史と理念を学び、戦後の社会保障制度のなかの福祉政策を学ぶ。
 基本的人権としての健康を守るために、様々な発達段階、健康レベル、機能障害を持つ人々へ生活の支援として、具体的な制度の利用の仕方を通して、理念の達成の方向性と現代の福祉の問題を学ぶ。

- 到達目標：1 社会福祉の概念を理解する。
 2 現在の社会福祉における生活問題について理解する。
 3 社会福祉の体系からみた社会福祉制度について理解する。
 4 公的扶助について理解する。
 5 児童福祉について理解する。
 6 高齢者福祉について理解する。
 7 障害者福祉について理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	社会福祉と福祉の違い ・福祉国家制度への経緯	講義
2	福祉の理念 ・戦後福祉国家を目指して歩み始めた日本	講義
3	戦後福祉国家を目指して歩み始めた日本	講義
4	日本の生活問題への特徴 ・日本の医療保険制度 ・社会保険	講義
5	社会保険 ・生活保護	講義
6	児童福祉 ・老人福祉 ・介護保険	講義
7	障害福祉 ・社会福祉全般	講義
8	まとめ 筆記試験 (50 分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 (医学書院)

参考書

科目名 生涯発達論 単位数 1 単位 15 時間
 科目区分名 健康支援と社会保障制度
 開講期 1 年次 後期
 教員名 菊地 尊

授業概要：エリクソンを始めとする生涯発達の考えは人が人として成長して行く上での必要な課題、すなわち危機の克服に向けての努力という本質的な問題を提起している。とりわけ老年期を成熟の極みと考え、身体的な機能低下をきたす以降も人間として発達し成熟してゆくという考えは、生きることを前向きに考えた理論として意義深い。しかし、今日の社会的、経済的、文化的要因に影響されて、ライフサイクルの各期の課題は遷延化し、成長発達に伴う様々な問題も複雑化してきている。人間にかかわり援助する役割を担う者は対象者の抱える目の前の訴えや問題の解決だけでなく、その人間としての存在意味を深くとらえつつ向き合うことが必要である。その為には、人間の発達過程を見つめることが出来る基本的知識を学ぶ。

- 到達目標：1 人間を発達し続ける存在として理解する。
 2 「発達の課題」と「発達の障害」について理解する。
 3 発達段階別の特徴を理解する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	新生児、乳児の知覚発達・運動発達：視覚, 聴覚, 運動の発達…反射から随意運動へ	講義
2	知覚から認識への発達：まとめり知覚, 意味理解…信号と物語, 信号の発生過程	講義
3	人間関係の発達：愛着行動の発達, 基本的生活習慣の獲得	講義
4	人間関係の発達2：遊びの定義と機能, 遊びの発生条件, 仲間との遊びの発達	講義
5	学習：動機づけ(内発的・外発的動機づけ)と原因帰属 学習障害…注意欠陥/多動性障害	講義
6	他者との関係：自他の理解と自律, 孤立…青年期・中年期・老年期の孤独感の構造	講義
7	自己意識の発達：自己の対象化, 自己比較, 高齢者の時間的比較の意義 適応障害：自己効力感, 有能感 職場不適応…職業アイデンティティとモトリアム	講義
8	まとめ 筆記試験(50分)	

評価方法 筆記試験 100 点

テキスト ガイドライン 生涯発達心理学 (ナカニシヤ出版)

科目名 癒しの科学 単位数 1 単位 30 時間

科目区分名 健康支援と社会保障制度

開講期 3 年次 前後期

教員名 梅沢 洋子 中川 禎子 関 郁史

授業概要： ヨーガ、アロマセラピー、音楽療法の実際を経験し、自分自身の体験を通して心とからだの関係を学び、人間にとっての癒しの必要性を理解する。

- 到達目標： 1 治療系(ヒーリングシステム)について理解する。
2 心が治療に果たす役割について理解する。
3 ヒーリングシステムを最大限に活用するための方法を理解する。
4 自然療法を体験する。

授業計画

回数	授業内容	授業方法
1	ヨーガについての説明 (心と体を鍛えるのではなく調える) ・アーサナ ・呼吸法	実技
2	ヨーガの実践 ・アーサナ ・浄化法 ・簡単な瞑想	実技
3	ヨーガの実践 ・アーサナ ・パワナムクタアーサナ ・呼吸法 2 獣類 ・シャバーサナ	実技
4	ヨーガの実践 ・二人ヨーガ 健康法 ・ヨーガの心のあり方について ・シャバーサナ	実技
5	ヨーガの実践・アーサナ ・呼吸法 ・シャバーサナ	実技
6	音楽療法とは ・音楽の持つ不思議な力 ・歴史に現れた音楽の力 ・音楽療法が適応できる対象	実技
7	音楽は人の心や体を変える ・世界現状、日本の実情 ・音楽と動き I ボール、トンチャム	実技
8	悲嘆 ・二つの主要な研究 S、フロイト E、リッテムン ・正常な悲嘆 ・病的な悲嘆	実技
9	悲嘆に影響を及ぼす諸要因 ・援助 (遺族への心理面) ・傾聴 ・演習 (能動的音楽療法)	実技
10	前半 (グループ練習) ・後半 (ミニトーンチャイムコンサート)	実技
11		
12	傾聴とその効果 音楽鑑賞	実技
13		
14	・アロマセラピーとの歴史とその背景 ・エッセンシャルオイルの基礎知識 ・悲嘆の援助活動としての植物療法	実技
15		

評価方法 課題レポート

テキスト 毎回資料配布

参考書